

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成 20年 9月 10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4077200121
法人名	医療法人 波多江外科
事業所名	グループホーム あかり
所在地 (電話番号)	福岡県糸島郡志摩町大字小富士 258番地 (電話) 092-327-2000

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2-2-51		
訪問調査日	平成20年8月29日	評価確定日	平成20年9月19日

【情報提供票より】(20年 7月 31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 11年 6月 1日						
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人				
職員数	31 人	常勤	30人	非常勤	1人	常勤換算	17.1人

### (2) 建物概要

建物形態	(併設) / 単独	新築 / 改築
建物構造	鉄筋準耐火 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または 1日当たり		1,480 円	

### (4) 利用者の概要(7月 31日現在)

利用者人数	27 名	男性	4 名	女性	23 名
要介護 1	6 名	要介護 2	8 名		
要介護 3	7 名	要介護 4	6 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 84.6 歳	最低	58 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	波多江外科医院、クリニック・パキス、糸島医師会病院
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山や田園風景が望める場所に位置しており、また、ホームの前の道路には小学生が植えた季節の花の街道が出来ていたり、施設内にも庭が作られていて花に囲まれていたり、四季を肌で感じる事が出来る環境である。母体老健施設のデイサービスやデイケアとの行き来も活発で、特にサークル活動は盛んである。カラオケ教室や絵画教室等、いくつものサークルが作られており、利用者が得意な分野で能力を発揮したり好きなことを楽しんだりする時間が多く持たれている。また、ボランティアや中学生の体験学習等の受け入れも積極的に行われており、ホームの中だけ、という閉塞的な生活にならないように、なるべくいろいろな人と関わりを持つように、また、外へ出かけていく機会も多く持つ等、利用者が楽しく過ごせる環境づくりに心がけている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善項目については、管理者と職員でミーティングの中で検討話し合いを行い、改善できるものや必要と思うものについては、積極的に取り組みを行い、改善を図っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	まず職員がそれぞれ自己評価票に記入したものを集めて、それらの内容をユニットごとにまとめて、最終的に管理者が作成した。評価を行う意義についても理解しており、これまでの業務を振り返る機会としている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	地域包括支援センターの職員や民生委員、利用者本人、家族の代表等が委員となり2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの取り組みや行事等を報告したり地域の情報を教えてもらったり、双方の情報交換の場となっている。会議後は運営推進だよりを作成し、いつでも見て頂けるよう面会簿と一緒に玄関に置いている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法 運営への反映(関連項目:外部8,9)
	意見や不満等、直接言いにくいこともあるかもしれないと考え、玄関に提案箱を設置して対応している。また、面会時等にも声をかけ、意見を吸い上げるように努めているが、今のところ特に意見や不満は出ていない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会に参加したり、公民館にホーム便りを置かせてもらったり、なるべく地域との接点を持つよう心がけている。また、法人全体で開催している行事(盆踊り等)をはじめ、中学生の体験学習の受け入れ等も行っており、地元の人々との交流は盛んである。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1.理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	地域密着ということを中心とした理念となるように、「住み慣れた地域であなたの大切な1日を心豊かに」という理念を作り上げている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関を入ってすぐのところに、大きく手書きされたものが掲示されておりいつでも目に付くように工夫されている。またミーティングの時間等を使って、理念についての話しをするようにしており常に意識付けに努めている。		
2.地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に参加したり、公民館にホーム便りを設置させてもらったり、なるべく地域との接点を持つように心がけている。また、法人全体で開催している行事(盆踊り等)をはじめ、中学生の体験学習の受け入れ等も行っており、地元の人々との交流は盛んである。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	まず職員がそれぞれ自己評価票に記入したものを集め、それらの内容をユニットごとまとめて、最終的に管理者が作成した。昨年の外部評価における改善点についても、ミーティングの中で話し合いを行い、改善に向けて取り組みを行った。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターの職員や民生委員、利用者本人、家族の代表等が委員となり、2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの取り組みや行事等を報告したり、地域の情報を教えてもらったり、双方の情報交換の場となっている。会議後は運営推進だよりを作成し、いつでも見て頂けるよう面会簿と一緒に玄関に置いている。		

グループホーム あかり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容 実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者がホームに来ることもあれば、町の窓口に出向いていたり、電話をしたりと、お互いに行き来する関係が出来ている。また、法人全体ではあるが、町からの委託事業（転倒予防教室やのびのび教室等）も受けており、それぞれのサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、研修の年間計画の中に組み込んでおり、年に1回は学ぶ機会を持つようにしている。		
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりについては、家族が面会に来られた際に話をするようにしているが、口頭で話すだけではなく、文書に残すことにより、面会に来た家族以外にも状況を知ってもらえるように、毎月利用者ごとに「連絡票」を作成し、面会時に手渡したり、郵送したりしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や不満等、直接言いにくいこともあるかもしれないと考え、玄関に提案箱を設置して対応している。また面会時等にも声をかけ、意見を吸い上げるように努めているが、今のところ特に意見や不満はでていない。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動等による利用者のダメージを考え、極力異動は行わないようにしている。もしも離職等があった場合も、普段から全職員が何でも出来る体制を取っていると同時に、引継ぎの期間も長めにとるようにしているため、引継ぎで困ることはない。		

グループホーム あかり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、その人本人の資質やグループホームに向いているかどうかというところを重視しており、年齢や性別、資格等で採用から排除することはない。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>倫理の会に入会しており、毎月、倫理や法令順守について書かれた冊子が送付してくるので、それを職員にも読んでもらいながら、人権についての理解を深めてもらっている。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修には積極的に参加を促している。職員が交代で参加し、ホーム内で伝達講習を行い、情報の共有を図っている。また内部研修についても法人内に教育委員会があり、年間計画を作成し、それに沿った形で定期的を開催している。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>町のサービス事業者担当者が集まった会議が月1回開催されており、それには出席しているが、グループホーム同士の交流は今のところ、管理者同士での関わりに留まっている。</p>	○	<p>今後は一般の職員を含めた上での、同業者のネットワークづくりを行っていくことが望まれる。近隣のグループホームとの交流を深め、事業者同士協働しながら、質の向上に取り組んでいくことも検討してはいかかだろうか。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>同法人のデイサービスやデイケアの利用者が入所するケースがほとんどなので、事前に馴染みの関係が出来ていることが多い。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>本人本位ということをし、何にでも手を出すのではなく、出来ることは行ってもらったり利用者得意なことを教えてもらったりしながら、共に支えあう関係を構築している。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>それぞれの性格や生活歴等から、本人がどのようにしたいのか、どのような思いを持っているのか等を探りながら、アプローチを行っている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>それぞれの担当がたたき台のケアプランを作成し、それを基に会議を開催して意見を出し合い、計画作成担当者が最終的にまとめるようにしている。家族の意見についても事前に面会時等に聞いて、それらを反映させたケアプランを作成している。</p>		<p>長期目標と短期目標、それぞれの内容が同じものも多く、また具体的に記載されていないものがある。目標設定を具体的にすることにより、後のモニタリングも行いやすく、且つより細やかな計画となるのではないだろうか。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、モニタリングを行った上で見直しを行い、新たな計画を作成している。状態に変化が見られた場合には、その都度、見直しを行うようにしている。</p>		

グループホーム あかり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の他のサービス事業との連携がとれており、利用者の状況により馴染みの生活環境をできるだけ継続しつつ、さまざまなサービスが提供できる環境が作られている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃の健康管理は、母体病院の診察を受けてもらっているが、疾病や状態に応じて、以前からのかかりつけ医の受診も支援している。いずれも利用者や家族の意見を尊重した上で支援である。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りについての指針を作成しており、事前に説明を行っている。実際にその状態になられた場合、かかりつけ医をはじめ、家族とも話し合いながら対応するようにしている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する職員の言葉かけや対応は、ゆっくりと穏やかに行われており、プライバシーを損ねるような場面は見受けられない。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせて、決して無理強いはいしないように臨機応変に対応している。今は希望がないが、以前は喫煙や晩酌をする利用者もあり、それぞれの楽しみごととして見守りながら支援していた。		

グループホーム あかり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれが出来る範囲で関わりを持ってもらうようにしている。利用者と職員が同じテーブルを囲み、同じ食事を摂りながら、ゆったりと食事の時間を楽しんでいた。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯や曜日等、利用者の希望に沿って入浴できるようにしている。中には入浴を拒否する利用者もいるが、無理強いせず、言葉かけでうまく誘導できるように心がけている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常的な掃除、洗濯、調理等、無理強いすることなく、自然にそれぞれの役割をもってもらえるように支援している。また、母体の老健施設と合同でのサークル活動も活発であり、好みのサークルに参加して、それぞれの特技を発揮している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節の花を見にドライブに出かけたり、利用者が元々住んでいたところの近くまで出かけた時等、それぞれの希望を聞きながら、支援を行っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけることはなく、自由に出入りできるようにしている。利用者の状態に合わせて、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、母体の老健施設と合同で避難訓練を行っている。それぞれ昼間と夜間を想定した訓練を行い、いざという時に備えている。またホームの隣に老健施設があるため、万が一の際は協力も得られる状態になっている。		

グループホーム あかり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の老健施設の管理栄養士が献立を作成しているため、栄養のバランスは取れている。また、食事や水分の摂取量も必要に応じてチェック表に記載するようしており、それぞれの状態に応じて支援している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓やイス等、一般の家庭で使用しているようなものが置かれており、心地よく過ごせる空間づくりがなされている。また所々に生花が飾られていて、季節を感じることもできる。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、好みのものや使い慣れた家具、人によっては仏壇等も持ち込まれており、自宅にいる感覚で居心地よく過ごせる空間づくりがなされている。		